

ビッグ・アイが担う4つの機能にちなんだ注目のニュースをお届け!

# ビッグ・アイプレス

障がい者の社会参加の促進に資することを目的とするビッグアイ。(1)国際交流・国際協力機能、(2)重度・重複障がい者の交流機能、(3)障がい者の芸術・文化の発信機能、(4)大規模災害時の後方支援機能の4つの機能を担っています。



**【国際交流・国際協力】** 日本から海外へ向けて行われている、障がい者支援活動をレポート



岡山県に本部を置く災害時緊急救援活動・復興支援に携わるNGO法人AMDA(アムダ)。2010年1月12日、ハイチ大地震発生後、すぐに医療支援を始め、同年4月から義肢支援活動も開始。現地では1年間支援活動を行っていました。震災後1年を機に、医師と義肢装具士として現地の被災者2名と共に帰国。その後、兵庫県・神戸市で記者会見や交流会が行われました(2011年1月16日)。義肢装具士としてハイチで義肢支援活動を行っていた八尾直毅氏が現地での活動を紹介。情報が整備されていない現地では被災者がどれくらい存在するのかわからない状態でした。現地の調査員の協力の元、被災して足を失った障がい者の方を探した

ハイチ大震災での障がい者支援活動、足を失った方へ義肢を提供する活動の報告。

すところから始まった義肢支援活動。一人一人探し出しては、八尾氏が義足を作り、そして義足が使えるまで一緒に指導するということが繰り返されました。「被災障がい者へどういう対応を心がけましたか?」との問いかけに「私は良い義足を作るためにがんばるから、あなたも頑張ってください!」とよく言っていました。少しスバルタかもしれません。でも、足の残った筋肉を鍛えて義足を使えるようにしないと一人で立てないからです」と答えた八尾氏。どんな支援活動も、支援される側、支援する側が協力し一緒に奮闘することで問題解決に繋がると痛感させられる一言。災害時支援で忘れてはならない理念のひとつではないでしょうか。被災し片足を失い義足提供を受けたカエルさん(18才)は、来日し神戸の街を見て、「大きな地震があったとは思えない。ハイチも頑張ってみんなと一緒に復興させていきたい」と話されました。義肢支援活動は一旦終了しますが、医療支援活動は続いて行つたAMDA。地震による負の連鎖が起きているハイチでは、劣悪な衛生環境のためコロナの感染が拡大しています。引き続きハイチの人々への暖かいご支援をお願いしたいと語られました。